



# 園長便り

セブンスデーアドベンチスト石川教会付属石川三育保育園

小学校6年生女の子が、ある王手の保険会社が主催する演劇を見て、人間の心の弱さについて次のように感想を寄せていました。

『「魔法をすてたマジョリン」には、大勢の魔女が出てきました。その中にマジョリンに人間のことを教えていくニラミンコという魔女がいました。ニラミンコの大げさな動きや台詞がとてもおもしろくてぐいぐい劇の中に引きこまれていったのですが、この魔女はとても大事なことを私たちに教えてくれているように思いました。…』

人の弱さとは。人の強さとは。そして人が望むものはなんなのだろう。人の心の中にはそれぞれ闇があって、意地悪なことを考えたり、人をねたんだりもします。でも人が闇ばかりふりまいていけば魔女たちの世界になってしまう。魔女の住家は人の心なんだと思いました。…この劇で私がなんと言っても驚いたのは、友達の代わりに罪をかぶろうとしたダビッドの存在でした。ダビッドは、この世で一番大切なものは「思いやりの心」だと言いました。思いやりの心で人の罪をかぶれるだろうかと自分でも考えてみましたが、私にはできません。…』

私も時々、自分の中の意地悪な心に気付くことがあります。ニラミンコが言うように、ふっとしたことがきっかけで、それがいやらしい悪の心に成長してしまうこともあるのかもとと思うとこわくなります。自分の心が魔女の住家にならないように、友達の優しさに気付き、自分自身も優しさを忘れず、温かい思いやりの心を育てていきたいです。』

この少女は演劇を見て、「魔女の住家は人の心なんだと思いました。…ニラミンコが言うように、ふっとしたことがきっかけで、それがいやらしい悪の心に成長してしまうこともあるのかもとと思うとこわくなります。」と人間の心の弱さに気がつきました。同時に、少女は自分の心の醜さに恐れを抱きました。おそらく、この少女の心の体験が、「温かい思いやりの心を育てて行きたいです。」という願いを起こさせたのでしょう。

さて、「いじめ」問題の解決も見据えてのことだと思いますが、私たちの国は、子供たちの「生きる力」を伸ばす教育を進めています。私は、この少女の心の体験の中に、昨今の「いじめ」の問題を解決する秘訣があるのではと思えてなりません。人は、自分の心の弱さを知った時、周りの人々の弱さに思いやることができるのではないのでしょうか。

『自己の弱さを感じて初めて、他人の弱さに同情するようになる。』

(エレン・G・ホワイト：アメリカの宗教家・教育者)

『そのとき、イエスは言われた、「父よ、彼らをおゆるしてください。彼らは何をしているのか、わからずにいるのです。』

(ルカによる福音書23：34)

園長 糸数正義

